

情報公開

このたび当院では2019年3月～2020年9月までに整形外科 2-5病棟に入院された患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

[研究課題名]

整形外科病棟における睡眠薬変更が患者の入院生活に及ぼす影響の検証

せん妄とは：脱水、感染、貧血、薬物など体に何らかの負担がかかったときに生ずる脳の機能の乱れから起こる、意識の混乱です。手術後1～3日に多くみられる症状です。認知症とは異なり、一時的な症状であることが多く、半数以上の方は治療で症状が回復するといわれています。

行動制限とは：せん妄が起こった際、患者さんの安全を守るために4点柵やセンサーマット類、抑制帯などを使用することです。憲法で人の自由は保証されており、人が人の行動を制限することは許されていません。病院で行う行動制限はあくまでの治療のための手段です。現在人権保護の観点から行動制限をできるだけ少なくし、早期に解除できるように病院として日々取り組んでいます。少しでも安心して治療を受けることができるようにしていきたいと考えています。

[研究の目的]

整形外科において、プロチゾラム・ゾルピデムからベルソムラに睡眠薬を変更し、患者さんの入院生活に及ぼす影響を明らかにすること

[研究の意義]

整形外科において眠れないときの睡眠薬を、せん妄を起こしやすい薬剤「プロチゾラム・ゾルピデム」からせん妄を起こしにくい「ベルソムラ」に変更し、患者さんの入院生活に及ぼす影響を明らかにすることで、より安全な療育環境を提供することができます。

[観察研究のオプトアウトに関する揭示資料]

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2019年3月～2020年9月までに整形外科 2-5 病棟に入院し、手術を受けられた患者さんで、以下の条件を満たす患者さん

- ・65歳以上
- ・睡眠薬・抗精神病薬を内服していた方

○利用するカルテ情報

- ・対象者背景：性別、年齢、認知症・精神疾患の有無
- ・入院中のせん妄、転倒転落、行動制限の有無、睡眠薬内服後の睡眠状況・食事摂取量・排便回数、日中の覚醒状況

[倫理的配慮]

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会で発表されることがありますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公開されません。

また、この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。

[利益相反]

この研究において費用は発生いたしません。患者さんへ費用の負担が発生することはありません。

※本研究への協力を望まれない患者さんは、以下の問合せ先へご連絡をお願いします。

独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター

研究責任者：2-5 病棟看護師長 久保里香

住所：〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町 1-1

電話：075-641-9161（代表）